

令和2年9月7日（月）～18日（金）

# 日本緑化工学会

## 令和2年通常総会

Web公告による開催  
<http://www.jsrt.jp/>

### － 次 第 －

#### 議 案

- (1) 第一号議案 令和元年度事業報告
- (2) 第二号議案 令和元年度決算報告
- (3) 第三号議案 令和2年度事業計画
- (4) 第四号議案 令和2年度収支予算
- (5) 第五号議案 名誉会員の推挙
- (6) その他

#### 開催日程

9月7日（月）～10日（木）

ホームページ上に議案の提示

メールによる意見・賛否の徴収

9月14日（月）～15日（火） 修正議案の公開・縦覧

9月18日（金） 議案の確定（審議終了）

議事録を公開

2020年9月14日 修正版

## 第一号議案

### 日本緑化工学会 令和元年度事業報告

(令和元・2019年8月1日～令和2・2020年7月31日)

#### 1. 第50回日本緑化工学会大会 ―50回記念大会―

開催年月日：令和元（2019）年9月13日～15日

開催地：九州産業大学（福岡県福岡市東区松香台2-3-1）

発表題数：95題（論文23件，技術報告32件，研究交流発表43件）

口頭発表18件，ポスター発表80件

参加者数：222名

正会員・賛助会員152名，学生会員38名，一般（非会員）23名，学生（非会員）9名

懇親会：118名（正会員92名，学生会員17名，一般（非会員）8名，学生（非会員）1名）

資材工法展示：賛助会員2社

#### 2. シンポジウム

##### (1) 第50回大会 公開シンポジウム

テーマ：「緑化の減災効果と今後の植生管理」

開催年月日：2019年9月13日（金）15：00-17：30

開催場所：九州産業大学（福岡市東区松香台2-3-1）

参加者数：153名

#### 3. 現地見学会

##### (1) 第50回大会 現地見学会

テーマ：「都市の自然再生」

開催年月日：2019年9月13日（金）10：15-14：30

場所：アクロス福岡，海の中道浜公園，アイランドシティ中央公園

参加者数：41名（内，正会員・賛助会員40名）

#### 4. 研究会等（研究部会主催）

##### (1) 斜面緑化研究部会

###### ① 第50回日本緑化工学会にて研究集会を実施

開催日時：2019年9月15日（日）13:00～15:00

開催場所：九州産業大学 8号館2階 8209教室

テーマ：自然侵入促進工の成功例と失敗例を考える 現場事例に学ぶ斜面緑化勉強会（第9回）

参加者数：85名

###### ② わかやま地域植物緑化研究会および生態・環境緑化研究部会と共催で現地見学会を実施

開催日時：2019年12月

開催場所：施工後5年程度経過した高野山の道路緑化法面

テーマ：地域性植物の種子採取，表土利用工や地域性種苗利用工の現場

参加者数：25名

## (2) 生態・環境緑化研究部会

### ① 第 50 回・2019 年大会（九州産業大学）にて研究集会を開催

開催日時： 2019 年 9 月 15 日（日） 12：00～13：00

開催場所： 九州産業大学 8d 号館 8209 教室（福岡県福岡市東区松香台）

テーマ： 地域性種苗の使用実態と今後の活用にむけた取り組み

参加者数： 110 名

### ② 本誌 45 巻 4 号特集「地域性種苗の使用実態と今後の活用にむけた取り組み」を掲載（p411-429）

### ③ 法面・斜面緑化における種子使用量の把握調査の結果公開（2019 年研究集会，45 巻 4 号特集）

### ④ 「阿蘇小規模崩壊地復元プロジェクト」の実施・継続

○ 2019 年も 2018 年とほぼ同内容の現地活動を実施

○ 2019 年 7 月 18-19 日 石灰石鉱業協会緑化委員会の現地検討会を実施

○ 環境省九州地方環境事務所に協力依頼して「阿蘇地域の自然公園内における緑化植物使用実態調査」を実施

○ 活動経費として研究部会で研究・活動助成を申請。その他原則として各自活動費を確保。

<公益財団法人自然保護助成基金 2019 年度協力型助成>採択（2019 年 4 月～2020 年 3 月）

### ⑤ わかやま地域植物緑化研究会および斜面緑化研究部会と共催で現地見学会を実施

## (3) 乾燥地緑化研究部会

2020 年 5 月 31 日に岡山大学に於いて、日本沙漠学会との共催で公開シンポジウム「乾燥地における植物の生理生態と緑化」を開催予定であったが、新型コロナウイルスの影響により中止とした。新型コロナの状況を踏まえつつ、今後の開催について可能性を検討中。

## (4) 緑・健康研究部会

公益財団法人高速道路調査会との共同企画として道路緑化技術検討会の開催を検討した。

場所は関西エリアで日時場所の調整中であったが、調整が付かず、次年度以降に再度検討することとなった。

## (5) 生物多様性緑化研究部会 市民参加型で歴史と地形の勉強会を継続的に実施

開催日時：2020 年 2 月 7 日（土）

開催場所：世田谷トラストまちづくりビジターセンター

テーマ：山田守氏講演会 「斜面緑地の防災および保全」

参加者数：20 名

市民参加型の活動は、新型コロナウイルス禍のため、見合わせた。

## (6) 海岸林・沿岸域緑化研究部会 第 50 回大会にて研究集会の開催

テーマ：海岸林の再生に向けて－再造林・天然更新・植生遷移の現状と課題－

開催日時：2019 年 9 月 15 日（日）13:00～15:00

開催場所：九州産業大学 8 号館 2 階 8205 教室

参加人数：35 名

## 5. 学会誌の発行

(1) 第 45 巻 1 号：令和元年 8 月 31 日発行 267 ページ（第 50 回大会特集号）

(2) 第 45 巻 2 号：令和元年 11 月 30 日発行 90 ページ

(3) 第 45 卷 3 号：令和 2 年 2 月 28 日発行 48 ページ

(4) 第 45 卷 4 号：令和 2 年 5 月 31 日発行 75 ページ

※第 45 卷 2 号に特集「眠っている生物データの発掘」を掲載

第 45 卷 3 号に特集「グリーンインフラの実装に向けて」を掲載。

第 45 卷 4 号に追悼「輿水肇先生を偲んで」及び特集「地域性種苗の使用実態と今後の活用に向けた取り組み」を掲載。

## 6. 英文誌 Landscape and Ecological Engineering の発行

(1) Vol. 15 No. 3：2019 年 10 月発行 (10 編)

(2) Vol. 16 No. 1：2020 年 1 月発行 (7 編)

(3) Vol. 16 No. 2：2020 年 4 月発行 (10 編)

(4) Vol. 16 No. 3：2020 年 7 月発行 (5 編)

※2019 年発行分より、LEE 誌はオンラインジャーナルとして発行されている。

## 7. 令和元年度日本緑化工学会賞の授与

研究奨励賞： 宮崎 直美 氏

「北海道十勝地方の都市人工林における在来草本・木本の再生・更新過程に関する一連の研究」

技術奨励賞： 寺本 行芳 氏

「荒廃地等における表層土の安定性予測技術と植生による減災効果の検証」

技術奨励賞： 伊東 日向 氏

「海岸林の構成樹種における発芽から稚樹段階の耐塩性評価」

技術奨励賞： 小野 幸菜 氏

「自然回復緑化および在来植物種子の最適な取り扱いに関する技術開発」

功績賞： 増田 拓朗 氏

「四国香川における都市緑化，里山～里海の保全活動の展開」

## 8. CPD

日本緑化工学会は平成 17 年度以来継続してきた緑化・環境 CPD 協議会による活動について、近年の利用者数の減少を鑑み、協議会 3 団体（日本緑化工学会、国土環境緑化協会連合会、特定非営利法人日本緑化工協会）の合意の下で解散決議を行った。その結果、2020 年 3 月 3 日をもって解散とし、活動資金については出資割合に応じて配分を完了した。今後の CPD 活動に関しては、(公社) 森林・自然環境技術教育研究センター (JAFEE) を通じて、建設系 CPD 協議会との互換性を積極的に活用して推進していくこととした。

## 9. 学会広報事業

(1) HP 運営ワーキンググループによるホームページの運営

(2) 公式ブログの運営と記事の企画・収集 <http://blog.canpan.info/jsrt/>

(3) メールによる案内「ニュースメール」の配信

アドレスが登録されている個人会員と、登録要請のあった賛助会員へ連絡事項を配信

10. 研究部門におけるその他活動

(1) 防災学術連携体における活動

1. 防災学術連携体 令和元年度総会に参加（小川委員）

開催日： 2020年7月15日（水）

2. 各種集会等の告知と参加

防災推進国民大会 2019 シンポジウム 参加の告知

令和元年台風第19号に関する緊急報告会に参加（吉崎会長）

開催日： 2019年12月24日（火）

第9回防災学術連携シンポジウム「低頻度巨大災害を考える」 ネット中継の告知

令和2年7月豪雨の緊急集会 ネット中継の告知

11. 緑化植物の取り扱い方の検討

緑化植物委員会では、2019年12月14日、12月26日に会議を2回開催した後、メールによって検討を重ね、「生物多様性保全のための緑化植物の取り扱い方に関する提言 2019」の周知を目的としたリーフレット原稿を作成した。

12. その他事業

(1) 応用生態工学会第23回広島大会（2019年9月27日～30日）の後援

(2) あまみずコーディネータ養成講座 2019（2019年11月15～16日、京都先端科学大学）の後援

(3) 日本緑化工協会主催「第41回緑化工技術講習会」（2020年2月13日・14日、東京農業大学世田谷キャンパス）の後援 備考：講師派遣

13. 会員数（令和2年7月末現在。括弧内は←前年度末、←前々年度末、←前々々年度末 の数）

(1) 名誉会員：8名（←8名 ←6名 ←6名）

(2) 正会員：569名（←573名 ←604名 ←606名）

(3) 学生会員：80名（←72名 ←102名 ←99名）

(4) 賛助会員：51団体（←51団体 ←53団体 ←55団体）

(5) 購読会員：35団体（←34団体 ←35団体 ←37団体）

※ 大会発表のため入会する学生会員に対する会費の優遇措置を、2015年度より実施、継続

# 令和元(2019)年度 収支報告書

(2019年8月1日～2020年7月31日)

## 日本緑化工学会

	費 目	予算額 (A)	決算額 (B)	差額 (B-A)	対予算割合 (B÷A×100)	摘 要
収入の部	正会員費	4,984,000	4,041,770	-942,230	81.09	正会員 577名 / 今年度入金 505名 (@8,000)
	賛助会員費	1,855,000	1,820,000	-35,000	98.11	賛助会員 52団体 / 今年度入金 52団体 (@35,000)
	購読会員費	280,000	296,000	16,000	105.71	購読会員 35団体 / 今年度入金 37団体 (@8,000)
	学生会員費	324,000	224,000	-100,000	69.14	学生会員 80名 / 今年度入金 56名 (@4,000)
	入会登録料	42,000	31,500	-10,500	75.00	45名 (@700)
	英文誌購読料	362,880	331,960	-30,920	91.48	
	投稿料	800,000	521,590	-278,410	65.20	
	広告料	2,005,000	1,450,000	-555,000	72.32	Vol.45-1～Vol.45-4分
	雑収入	1,500,000	2,610,442	1,110,442	174.03	別刷・BN販売収入、著作権使用料、J-Stage有料閲覧費、利息等、CPD協議会解散に伴う分配金¥1,131,100を含む
	小計	12,152,880	11,327,262	-825,618	93.21	
	繰越金	1,629,745	1,629,745			
合計	13,782,625	12,957,007	-825,618	94.01		
支出の部	会議費	55,000	7,084	-47,916	12.88	理事会・評議会会議室借上費 他
	旅費交通費	250,000	83,478	-166,522	33.39	理事会交通費
	事務人件費	180,000	291,457	111,457	161.92	本部経費、総務部会事務費、HP・ML管理費、サーバー料
	通信費	750,000	700,269	-49,731	93.37	会誌・会費請求書発送費、電話・FAX料
	事務用品費	100,000	83,132	-16,868	83.13	総務部会事務用品費、コピーリース料
	学会誌刊行費	6,400,000	5,749,362	-650,638	89.83	学会誌編集・製作委託費、J-Stage登録費用
	英文誌出版分担金	510,000	480,000	-30,000	94.12	英文誌出版分担金
	大会補助費	100,000	10,800	-89,200	10.80	大会開催補助費
	ソボジウム・見学会補助費	100,000	0	-100,000	0.00	
	研究部会補助費	50,000	0	-50,000	0.00	
	委員会等経費	400,000	77,896	-322,104	19.47	編集委員会、大会誌編集委員会
	事務委託費	1,850,000	1,912,460	62,460	103.38	学会事務業務委託費(会員入退会、会費徴収、会計事務業務等)
	CPD等経費	0	19,503	19,503		管理経費
	諸会費	160,000	160,000	0	100.00	JABEE、JAFEE、防災学術連携体
	震災特別対策費	25,000	0	-25,000	0.00	震災調査費用
	雑費	50,000	8,332	-41,668	16.66	振込手数料 他
	小計	10,980,000	9,583,773	-1,396,227		
	予備費	2,802,625	3,373,234	570,609	120.36	CPD協議会解散に伴う分配金¥1,131,100、九州大会入金¥621,478を含む
合計	13,782,625	12,957,007	-825,618	94.01		

次期繰越金	3,373,234
-------	-----------

2019年度 日本緑化工学会の収支決算内容を上記のとおりご報告申し上げます。

2020年8月24日

日本緑化工学会経理担当理事 入山 義久

## 2020年度 貸借対照表

2020年 7月 31日現在

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
現金	42,338	前受け会費	2,039,560
預け金	6,330,539	未払い費用	1,520,233
未収金	560,150	次期繰越金	3,373,234
合 計	6,933,027	合 計	6,933,027

### - 財 産 目 録 -

#### 資産の部

科 目	摘 要	金 額
現金	事務局	42,338
預け金	みずほ銀行 本郷支店	3,425,651
	本郷郵便局	2,904,888
	小 計	6,330,539
未収金	BN販売	6,350
	別刷り代	19,800
	投稿料	66,000
	会費	348,000
	広告費	120,000
	小 計	560,150
合 計		6,933,027

#### 負債の部

科 目	摘 要	金 額
前受け会費	正会員	1,800,960
	学生会員	84,000
	英文購読料・オンライン	127,600
	購読会員費	16,000
	別刷り代	11,000
	小 計	2,039,560
未払費用	学会誌刊行費	1,042,118
	事務委託費	478,115
	小 計	1,520,233
合 計		3,559,793

### - 会 計 監 査 報 告 -

2019年度(2019年 8月 1日 ~ 2020年 7月31日) 収支決算報告書および財産目録に基づき、帳簿類を監査したところ、適正であることを認めます。

2020年 9月 4日

2019年度 日本緑化工学会

同上

監事

福永健司



監事

中野裕司



## 2019年度 阿蘇小規模崩壊地復元プロジェクト 収支報告書

(2019年4月1日～2020年3月31日)

### 日本緑化工学会 生態・環境緑化研究部会

	費目	決算額	摘要
収入の部	自然保護基金 助成金	1,000,000	2019年4月5日 公益財団法人自然保護助成基金より入金
	繰越金	0	
	合計	1,000,000	
支出の部	消耗品費	20,989	資材購入費用等
	謝金	234,650	謝金等
	旅費	613,533	現地活動旅費、現地移動費
	通信運搬費	115,444	宅配料金、現地輸送費
	印刷費	7,663	プロジェクトパンフレット印刷代等
	会議費	6,300	会場使用料
	雑経費	660	振込手数料
	残金処理	761	日本緑化工学会へ入金
	小計	1,000,000	
	予備費	0	
合計	1,000,000		

次期繰越金	0
-------	---

2019年度 阿蘇小規模崩壊地復元プロジェクトの収支決算内容を上記のとおりご報告申し上げます。

2020年8月31日

日本緑化工学会 生態・環境緑化研究部会  
会計担当 吉原敬嗣

2019年度 日本緑化工学会 経理部会長 入山義久

### — 会計監査報告 —

2019年度(2019年4月1日～2020年3月31日)収支報告書に基づき、証憑類を監査したところ、適正であることを認めます。

2020年 9月4日

2019年度 日本緑化工学会 監事

福永健司 

監事

中野裕司 

## 第三号議案

日本緑化工学会 令和2年度事業計画（案）

（令和2・2020年8月1日～令和3・2021年7月31日）

### 1. 第51回日本緑化工学会 岩手 Web 大会

開催年月日： 令和2年9月5日～13日

開催方法： Web 掲示板等による発表・討議

発表題数： 題（論文11件，技術報告30件，研究交流発表25件）

第51回大会シンポジウム「震災復興とグリーンインフラ」（9月5日）を開催

※ 第52回大会は2021年9月に開催予定。合同大会 ELR の開催は1年延期

第53回大会は3学会合同大会「ELR2022」として、関東地方にて開催予定。

### 2. 研究会等

#### (1) 斜面緑化研究部会

「現場事例に学ぶ斜面緑化勉強会」を2回程度開催予定。

#### (2) 都市緑化技術研究部会

「グリーンインフラの実装と評価指標」について、シンポジウムを中心とした活動を2021年4月もしくは5月に計画中。

#### (3) 生態・環境緑化研究部会

##### ① 第51回日本緑化工学会（Web大会）にて研究集会を企画

開催日時： 2020年9月6日（日）14:00～16:00

テーマ： 地域性種苗の活用促進，災害や気候変動への対応，大規模開発と緑化技術

##### ② 「阿蘇小規模崩壊地復元プロジェクト」の継続 [http://www.jsrt.jp/tech/ASO\\_project.html](http://www.jsrt.jp/tech/ASO_project.html)

活動経費について：研究部会で助成を申請。その他原則として各自活動費を確保。

<公益財団法人自然保護助成基金 2020年度協力型助成>採択（2020年4月～2022年3月）

##### ③ 環境省九州地方環境事務所阿蘇くじゅう国立公園管理事務所との協力により，自然公園内における緑化工事の実施状況の調査を継続

#### (4) 積雪寒冷地緑化研究部会

令和元年度は，寒冷地斜面緑化に関する研究集会や現場技術者を対象とした講習会を開催予定していたが，コロナ禍のため延期した。令和2年度は，国土保全・防災の視点から寒冷地法面における植生工の補強効果とその限界（とくに根系の役割）に関する研究集会や講習会を（オンラインを含めて）開催を予定している。

#### (5) 緑・健康研究部会

##### ① 第51回日本緑化工学会にて，研究集会を企画

開催日時：2020年9月5日（土）16:30～18:30

テーマ：コロナ禍における緑地の利用状況と住民の健康を考慮した今後の展開

##### ② 公益財団法人高速道路調査会との共同企画として道路緑化技術検討会の開催を検討。

時期は未定，場所は関西エリアで調整中。

#### (6) 生物多様性緑化研究部会

##### ① 市民参加型で歴史と地形の勉強会を継続

開催時期：2020 年秋

テーマ：生田緑地及び近隣の歴史地形勉強会

(杣形山を中心に小沢城址から作延城址までのエリア) 地形の成り立ちについて

開催場所：生田緑地内会議室

参加予定者数：20 名

②生物多様性を生かした緑化について①のフィールド周辺で発信する。

#### (7) 海岸林・沿岸域緑化研究部会

第 3 回公開勉強会をオンラインなどで開催を計画中。時期および内容は未定。

(現在活動中の緑化工研究部会)

斜面緑化研究部会

都市緑化技術研究部会

生態・環境緑化研究部会

乾燥地緑化研究部会

積雪寒冷地緑化研究部会

緑・健康研究部会

生物多様性緑化研究部会

海岸林・沿岸域緑化研究部会

### 3. シンポジウム

年 1 回以上開催予定 (下記以外については詳細検討中)

#### (1) 第 51 回大会シンポジウム

開催予定年月日：2020 年 9 月 5 日 (土) 13:00 ~ 15:30

開催地：オンライン (YouTube 配信)

テーマ：「震災復興とグリーンインフラ」

### 4. 現地見学会

年 1 回以上開催予定 (岩手大会の現地見学会は延期。そのほかは検討中)

### 5. 学会誌の発行：4 回発行予定 (第 46 巻 1 号～4 号)

第 46 巻 1 号 (デジタル版)：令和 2 年 8 月 31 日発行 189 ページ (第 51 回大会特集号)

第 46 巻 2 号：令和 2 年 11 月末 発行予定

第 46 巻 3 号：令和 3 年 2 月末 発行予定

第 46 巻 4 号：令和 3 年 5 月末 発行予定

### 6. 英文誌 Landscape and Ecological Engineering の発行：

4 回発行予定 (Vol. 16 No. 4, Vol. 17 No. 1, No. 2, No. 3)

### 7. 学会賞の授与

令和 2 年度日本緑化工学会賞の授与 (令和 3 年総会にて授与予定)

### 8. CPD

Web 大会における CPD 受講確認について事前に送付した「参加票」に内容を記述して返信いただくことで可能とした。今後、建設系 CPD 協議会との互換については受講証明書を発行して対応する。

## 9. 学会広報事業

- (1) HP 運営ワーキンググループによるホームページの運営
- (2) 会員向け連絡「ニュースメール」の配信，体制確保
- (3) 公式ブログの運営と記事の企画・収集 <http://blog.canpan.info/jsrt/>

## 10. 緑化植物の取り扱い方の検討

緑化植物委員会において会議を2回程度開催し，関係者へのリーフレットの配布など，「生物多様性保全のための緑化植物の取り扱い方に関する提言 2019」のビジョンの実現に向けた活動を行う。

## 11. その他

### (1) 防災学術連携体における活動

1. 総会，防災減災学術連携委員会及び防災学術連携体の連絡会に参加予定。
2. 防災学術連携体からの依頼の中で日本緑化工学会が参加できる内容については対応予定。

# 令和2(2020)年度 予算書 (案)

令和 2年 8月 1日 ~ 令和 3年 7月31日

## 日本緑化工学会

	費 目	予算額 (A)	令和元年度 決算額 (B)	決算額との 差額	摘 要
収入の部	正会員費	4,000,000	4,041,770	-41,770	500名@8,000
	賛助会員費	1,820,000	1,820,000	0	52団体@35,000
	購読会員費	280,000	296,000	-16,000	35団体@8,000
	学生会員費	220,000	224,000	-4,000	55名@4,000
	入会登録料	31,500	31,500	0	45名@700
	英文誌購読料	330,000	331,960	-1,960	
	投稿料	500,000	521,590	-21,590	
	広告料	1,450,000	1,450,000	0	
	雑収入	900,000	2,610,442	-1,710,442	別刷・BN販売収入、著作権使用料、J-Stage有料閲覧費、利息等
	小 計	9,531,500	11,327,262	-1,795,762	
	繰越金	3,373,234	1,629,745	1,743,489	
	合 計	12,904,734	12,957,007	-52,273	
支出の部	会議費	50,000	7,084	42,916	会議室借上費 他
	旅費交通費	100,000	83,478	16,522	理事会交通費、対面開催は1回とし、他はWeb会議・メール会議とする
	事務人件費	300,000	291,457	8,543	本部経費、総務部会事務費、HP・ML管理費、サーバレンタル料
	通信費	700,000	700,269	-269	会誌・会費請求書発送費、電話・FAX料
	事務用品費	100,000	83,132	16,868	学会賞賞状・副賞、総務部会事務用品費
	学会誌刊行費	3,400,000	5,749,362	-2,349,362	学会誌編集・製作委託費(大会号をオンライン化)、J-Stage登録費用
	英文誌出版分担金	680,000	480,000	200,000	英文誌出版分担金、英文誌購読料、英文誌刊行事務委託費
	大会補助費	100,000	10,800	89,200	大会開催補助費
	シンポジウム・見学会補助費	100,000	0	100,000	
	研究部会補助費	50,000	0	50,000	
	委員会等経費	400,000	77,896	322,104	編集委員会、大会誌編集委員会、緑化植物委員会
	事務委託費	1,700,000	1,912,460	-212,460	学会事務業務委託費(会員入退会、会費徴収、会計事務業務等)
	CPD等経費	0	19,503	-19,503	
	諸会費	160,000	160,000	0	JABEE、JAFEE、防災学術連携体
	震災特別対策費	25,000	0	25,000	震災調査費用
	雑費	30,000	8,332	21,668	振込手数料 他
	基金積み立て	1,130,000	0	1,130,000	CPD協議会解散に伴う分配金 ¥1,131,100
	小 計	9,025,000	9,583,773	-558,773	
	予備費	3,879,734	3,373,234	506,500	
合 計	12,904,734	12,957,007	-52,273		

2020年8月24日

日本緑化工学会経理担当理事 入山 義久

## 2020年度 基金 予算（案）

	勘定科目	予算額	備考
収入 の 部	前期より繰り越し	0	
	利子収入	5	
	一般会計より戻し入れ	1,130,000	新規に積み立て
	合 計	1,130,005	
支出 の 部	一般会計へ繰り入れ	0	
	一般会計へ貸し出し	0	
	合 計	0	残高予定 ¥ 1,130,005

## 第五号議案 名誉会員の推挙

氏名：長谷川秀三

推挙理由：

長谷川秀三氏は、京都大学農学部林学科を卒業後、造園会社に入社し、1960年代から重機を使って造成された緑化地での植物の生育不良や枯損の問題に取り組み、土壌の物理的性質と植物生育との関係に着目して原因解明と対策について研究を進められました。様々な緑地で土壌の性質と植物生育の関係を調査し、その過程で、長谷川式土壌貫入計、長谷川式簡易現場透水試験器、大型検土杖といった実用的な測定機器を考案し、それらを使った客観的な植栽基盤の評価基準を確立させました。これらの業績は、1995年に日本緑化工学会学会賞 技術賞（土壌調査器具の開発と応用に関する研究）、2007年に砂防学会砂防技術賞（SH型簡易貫入試験機の開発と適用）、2013年には日本緑化工学会賞 功績賞授賞という形で学術的に評価され、今日、標準的な調査法として緑化現場に広く普及し、東日本大震災後の海岸林の再生に活用されるなど、健全な緑地造成に大いに貢献しています。中でもSH型貫入試験機は、傾斜地や地すべり地、液状化や堤防の調査をはじめとする土木の分野でも活用が進み、2019年には「新・斜面崩壊防止工事の設計と実例—急傾斜地崩壊防止工事技術指針—」に、表層構造調査用の簡易勧誘試験として例示されるなど、緑化学はもとより、砂防工学、地盤工学をはじめとする幅広い分野における調査技術として採用が進んでいます。

長谷川氏の土壌調査手法は、造成緑地土壌の評価にとどまらず、自然緑地の植物の生育環境の把握にも応用され、ツツジをはじめ、コナラ、ブナなど様々な植物の生育要因の解明などにも活用されてきました。

長谷川氏の調査・研究の成果は、書籍『緑を創る植栽基盤』（1998年、ソフトサイエンス社）はじめ、多くの論文、普及記事などとして公表されています。情熱をもって歯に衣着せぬ単刀直入な技術論を語る長谷川氏の姿に勇気づけられ、叱咤激励された緑化工技術者も少なくありません。

学会運営への貢献として、長谷川氏が本学会の理事、監事を歴任されたこと、また、長谷川氏が設立したジオグリーンテック株式会社に2004年から2005年の2年度に渡って、学会事務局としての業務を引き受けていただいたことが挙げられます。

このような功績のある長谷川氏には、今後も引き続き名誉会員として本学会に対してご指導賜りたく、ここに長谷川秀三氏を名誉会員として推挙いたします。

吉田 寛（東興ジオテック 株式会社）

高橋輝昌（千葉大学）